

今日の説教のポイント<マタイによる福音書8章23~27節>

①前節と繋がりあり！

今日の箇所は、まず先週との繋がりを考える必要があります。「父親の葬儀に出るよりも、私に従いなさい」(22)と命じられた主イエス。しかし、それは万人にではなく、特に「イエス様に従いたい」と願い出た者に求められたことでした。その弟子たちが湖の上で嵐に会ったのです。だとすると、この嵐は予期せぬ災いと考えるよりは、それによって自分たちを鍛えて下さるために備えられたものと考えたら良かったのかもしれない。このような試練は、何も弟子たちだけに与えられるわけではありません。すべての人に、その人に応じたふさわしい試練、すなわち、それを通して鍛えられていく試練が与えられます。その試練についてパウロが言っている言葉が大事です。「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていて下さいます」(コリント I 10:13)。

②イエス様はなぜ眠っておられたのか？

こう考えると、どんなに嵐がひどくなってもイエス様が平気で眠っておられた理由がわかります。イエス様は何事が起きても動じないお方というよりは、すべてを治めすべてを知っておられるお方、「風と湖とをお叱りになると、すっかり凪になった」(26)お方なのです！ ですから、「イエス様のように私も強くなろう」と思うのはピント外れです。「このようなイエス様が共にいて下さるのだから、私は弱くても、もう大丈夫」、そう思えるようになるのが信仰の恵みなのです！

③「舟」は教会、「嵐」は迫害とする理解は正しい！

この箇所は、初代教会以来、「舟は教会を、嵐は迫害を表している」と理解して読まれてきました。日本の教会も含めて確かにこれまで教会は数多の迫害に遭い、それでも不思議なことにちゃんと立ち続け、広がり続けて来ました。私たちが自分の頭で考えて「もうだめだ」と思うことはそれほど確かなことではないのです。聖書が記している御言葉を信じて立ち続けること、その方がずっと確かであることを思います！ 主の招きを受け入れ、教会の肢となって歩み行こうではありませんか！